

# 早くおどりたいな

【二年】

授業参観じゆぎようさんかんの日、お母さんがしよう口の所で上を見てなつかしそうにしていました。

「どうしたの、お母さん。」といったら、

「なつかしいわあ。これ、お母さんの卒業制作そつぎようせいさくで作ったのよ。」

そこには、タイルでできた「鹿剣ししけん」の絵えがかざってありました。

学校に來ると毎日見ているけれども、お母さんたちが作ったとはこれまで知りませんでした。

お母さんがなつかしがっているということ

は、他のお父さんやお母さんはどう思っているのかとても知りたくなりました。



先生が何人かの人に聞いてくれました。

「昔はカセットテープから流ながれる曲うただったし、剣けんの舞まいは面めんがなかった。今は生の唄うたや笛ふえなのでびっくりしました。」

「いろんな所に行っておどったきおくがありません。」

「根白石小学校にいたので、福岡小学校でこのような伝承活動でんしやうかつどうがあると知りませんでした。いろんな人に見てもらいたいです。」

「私は、**イズミティ21のこけら落とし**（\*）で6年生の時におどりました。」

私たちのたくさんのお父さんやお母さんが小学生の頃ころにおどっていて、今でも六年生のおどったことがなつかしい思い出になっていることがよくわかりました。



学芸会や地いきの夏祭りまつなどで、おじいちゃんやおばあちゃんがにこにこして見ているのは、福岡の人たちみんなが「鹿踊・剣舞ししおどりけんばい」を大切にしているからだなと思います。

「自分や子供こどもだけでなく、孫まごやひ孫の代まで続けてほしいです。」  
「親子二代で体験たいけんできることはとても貴重なきちやうことと思ひ、我が子がおどる日を楽しみにしています。」

たくさんの地いきの人たちが、五、六年生のおどる「鹿踊・剣舞」を楽しみにしているし、これからも続けていってほしい気持ちを考えると、なんだか私の中の何かがむずむずしてきました。

これまで何度かお兄さんやお姉さんたちのおどっているのを見てきたけれど、自然に、私の手や足が動いているのにびっくりしました。

あるお母さんが言っていました。

「六年生になっておどれることにあこがれをいっていたような気がします。よその学校ではできない体験ができることが楽しかったです。」

「鹿の踊り」や「剣の踊り」を見ているうちに、早くおどってみたいくなりました。

わたしも五年生や六年生のように上手におどれるようになるかな。



\* こけらおとし・・・新しい劇場ができたときに祝う

初めてのもよおし